

ネットワークアンケート ②5

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 検査値を伝えることは、糖尿病患者さんの意識向上につながっていると実感されますか？

療養指導・管理の重要な手がかりとなる血糖コントロール状態を反映するさまざまな検査。療養生活の通信簿として、患者さんはその数値に一喜一憂されていることでしょう。今回は、HbA1cのほか、GA、FRA、1,5-AGの検査に対する認識や実施状況についてお伺いしました。

[回答数：医療スタッフ100名(医師23、看護師25、管理栄養士20、薬剤師13、臨床検査技師15、その他4。うち日本糖尿病療養指導士24)、患者さんやその家族470名(病態/1型糖尿病186、2型糖尿病258、糖尿病境界型15、その他11、治療内容/食事療法を行っている358、運動療法を行っている275、経口薬を服用している219、インスリン療法276)/重複回答有]

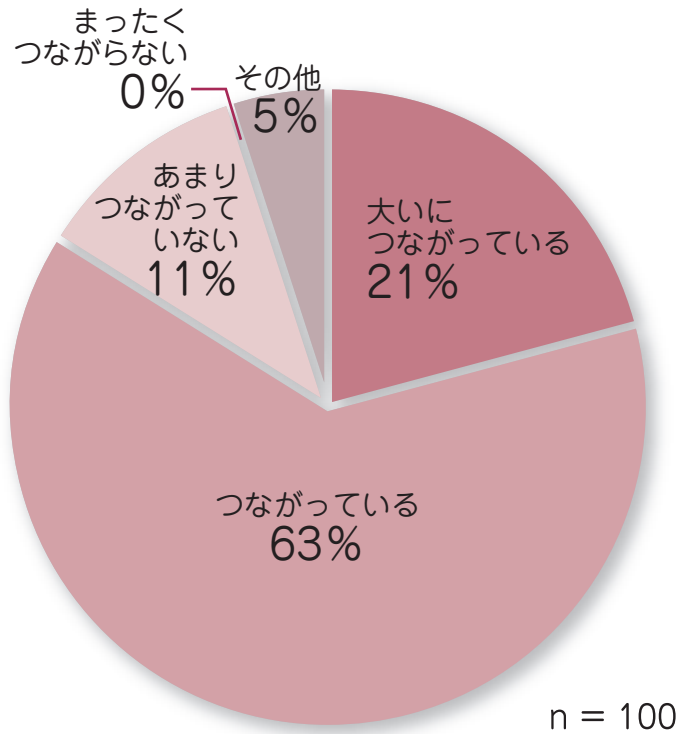
* ページ内略：ヘモグロビンA1c(HbA1c)：過去1~2カ月を反映 グリコアルブミン(GA)：過去約2週間を反映 フルクトサミン(FRA)：過去約2週間を反映 1,5-アンヒドログルシトール検査(1,5-AG)：過去数日を反映

「大いにつながっている」「つながっている」を合わせて84%の医療スタッフが、療養生活に対する意識向上につながっていると回答しました。とくに、HbA1cの検査値は、「日常診療や指導に役立っている」と実感されている方が97%と、たいへん広く活用されていることがうかがえました。検査の実施状況では、HbA1cは糖尿病患者さんの8割以上に「実施している」とした方が96%でしたが、GAでは47%、FRAは56%、1,5-AGは57%が「20%以下」での実施でした。

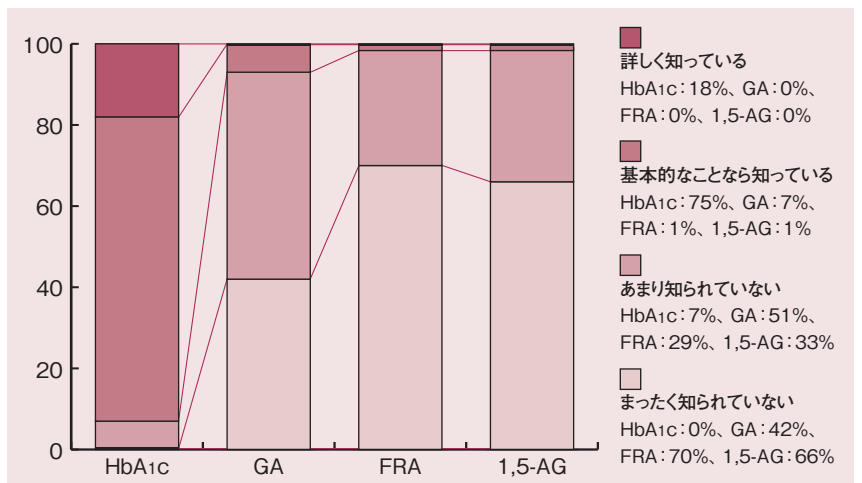
さらに、各検査に対する患者さんの認知度は、HbA1cは、「基本的なことなら知っ

ている」を中心に93%が「知られている」との回答でしたが、GAでは93%、FRAは99%、1,5-AGは99%が“あまり”あるいは“まったく”「知られていない」との状況。後者3種は、「ケースによっては役立っている」(GAは35%、FRAは18%、1,5-AGは34%)としているものの、現場での認知はあまり浸透していないようです。自由記述では、‘外

来では、血糖値よりもHbA1cの値で話をする’GAや他の検査値はもっと医療スタッフの教育が必要’‘検査値を意識している患者さんほど治療に前向きだが、コントロール不良者ほど検査値に無関心(知りたくない)’といった声がありました。



Q. どの程度認知されている方が多いと思われますか？ (n=100)



Q. どれぐらいの糖尿病患者さんに検査を実施していますか？ (n=100)

	HbA1c	GA	FRA	1,5-AG
全員	63%	0%	0%	0%
80%以上	33%	4%	1%	2%
60~79%	0%	2%	2%	2%
40~59%	3%	8%	1%	1%
20~39%	1%	15%	2%	5%
20%未満	0%	47%	56%	57%
わからない	0%	24%	38%	33%